

受動的な苦しみは詩の材料にはならない

平和統一 NEWS No.70 (2014/7月号)

渡辺 久義

かなり前のことになるが、「3・1独立記念日」に、在日の方々と日本人が寄り合って議論する会合が数年続き、私は毎回出席した。主催者が、私の発言にはハラハラすると言っていたくらいだから、およそ想像していただけるだろう。私はこの席で、アイルランドの詩人 W・B・イェイツ (1865-1939) が、“戦争詩”と言われるものを軽蔑していたという話をした。当時よく書かれた“戦争詩”は、大体において、戦争の悲惨さを訴える、抗議する、嘆く怨むというマイナス感情が根底にあって、イェイツはこれを忌み嫌った。アイルランドにとってイギリスは怨敵であり、当時も昔もイギリスによって苦しめられていたにもかかわらず、彼はそういう題材を扱っても、そこに抗議や恨みの要素は全くなかった。彼はその理由を述べて、「受動的な苦しみは詩の材料にはならない」と言った。裏を返せば、「能動的な苦しみしか詩の材料にはならない」ということである。これは私の著書『イェイツ』の柱となるテーマの一つである。「受動的な苦しみ」は詩だけでなく、人生の材料にもならない。

先日、韓国首相に擬せられたが、親日家だと批判されて辞退してしまった文昌克氏の言葉が紹介された——「慰安婦問題で日本に謝罪を要求するほど、我々は弱い国ではない」。私ははっとした。これこそ私がずっと言ってきたことだった。何かの日韓親善の大会でも、私は壇上から全く同じ意味のことを言ったので、ひょっとしたら私の顔を思い出した人がいるかもしれない。私はあの時、いわゆる「3・1独立宣言文」の私の解釈として、同じことを言った。あの独立宣言文はいわゆる美文であって、現代的感覚では、何を言いたいのかはっきりしないとも言えるが、あの気宇壮大な文章には、ある高邁な思想が込められていると私は言った。それは日本人に対しても韓国人に対しても、君たちは支配者・被支配者などという枠組みの上にあぐらをかきほど、情けない民族ではないはずだ、東洋人としての誇りを持って、と言っているように解釈できるからである。

私が文昌克氏の言葉に共感するのは、彼が親日家(?)だからではない。私は彼の韓国人としてのプライドと愛国心に感動する。彼は、反日・被害者意識をコアとして国づくりをするようなことをやめよ、と言いたかったのだろう。私には、そしておそらく世界の大多数の人々には、これこそ一国のリーダーとしての健全な感覚に思えるが、韓国では一般的に言って、そうではないらしい。彼は首相として失格のようだ。

私はこれ以上は言わない。私の言ったことに対して私を憎む人があるなら、それで結構。しかし一般に日本人が私のように言わないのは、本当の友情をもたないからである。これはあふれ返るような日本人の嫌韓ブログを見ればわかる。

ついでにもう一つ言わせてもらいたいことがある。これは何度か書いたので、この連続エッセーでも言ったかもしれないが、韓国の漢字追放の問題である。私はこれが不思議でしようがないので、これまで会う人ごとに、なぜ韓国では漢字の復活ができないのか聞いてみたが、ほとんどの場合、反応は、嫌な質問をされたときの沈黙だった。韓国語では、漢字語の割合が日本語以上だと言われるのに、その漢字を廃止することによって失われるものの大きさは、誰が考えても明らかである。我々は漢字によって思考力を身につける。知的な話は、瞬間的に漢字を思い浮かべながらやっている。抽象概念は漢字を組み合わせるより、我々漢字文化圏の者には方法がない。日本語の場合、「やまとことば」によって西洋語の抽象概念を表わす言葉は作れない。韓国語でも同じはずである。

ある学生が韓国で水素を「スソ」と教えられて、何でそう言うのかわからなかったが、日本へ来てこれが「水素」だと知って、やっと納得できたと言っていた。化学の言葉でいえば、特に「触媒」などはその顕著な例である。これを発音だけで覚えても無意味だが、catalystを「触媒＝触れるなかだち」と訳したことによって我々の理解は容易くなった（触媒は、触れることで化学反応を早めるが、自分は変わらない）。

なぜ漢字を復活させないのかと聞かれて、韓国の方々が嫌な顔をして沈黙するのは、こうした漢字語のほとんどが日本から入ったことを、反日感情から認めたくない、教えたくないの、ハングル表記（発音）だけで通しているという事情が、裏にあるからであろう。もしそうなら、反日という「感情」のために、せつかくの日本との絆を切るだけではない、それによって自国の文化そのものを犠牲にすることになる。

私は言葉を抑えているつもりだが、それでも激怒する人があるだろう。構わない。私がこういうことを言うのは悪意からではない。この問題についても日本人のブログをご覧になるといい。それらのほとんどは、私のような動機でものを言っていない。